

さとやま
里山 とな〜に





1.

僕は里山うまれのリスのリッキーだよ！

僕たちリス族はドングリが大好きなんだ。

だから、ドングリを埋めておいて、あとで食べるんだ。

今日は、僕がうまれた里山のはなしをするよ。

みんな里山って、知ってる？



2.

里山と言ってもネ、

「里山」という名前の山じゃないよ。

里山というのはね、

簡単に言うと、

みんなが住んでいる家のまわりにある

山や神社の林、

小川や田んぼや畑など、

人の住んでいる近くの自然のことを

里山っていうんだよ。



3.

昔はね、人はいろいろな道具を山の木から作っていたんだ。

農家の人たちは山に入ってタキギを拾ったり炭を焼いたりしていたんだよ。

そうやって山に人の手が入ると、

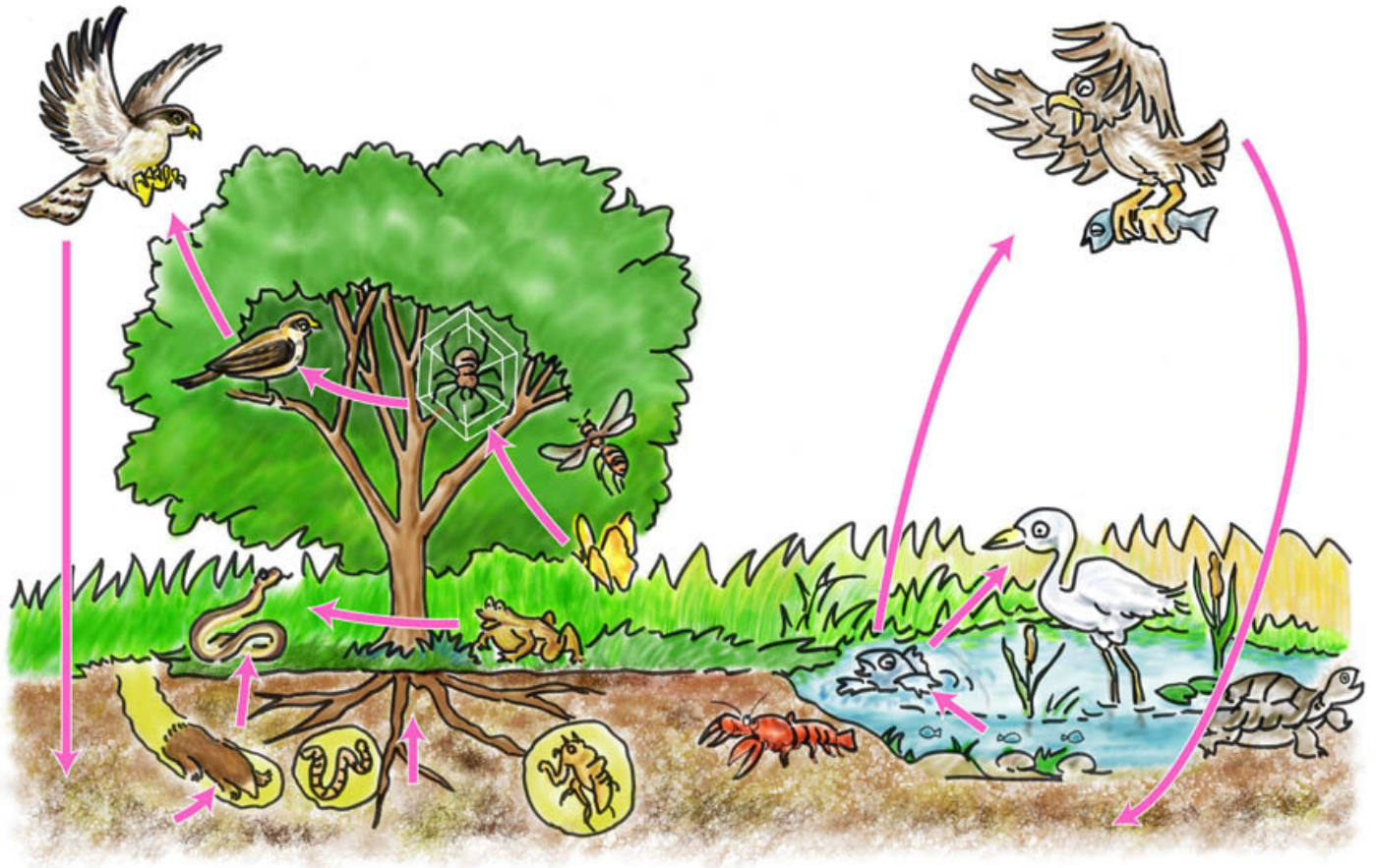
山の木の下まで太陽の光が入るんだ。

太陽の光が入ると、いろいろな草や花がさいて、木の実もできるんだ。

僕の大好きなドングリの実も里山にはあるんだよ。

里山のおかげで、

いろいろな種類の生き物が生活できるんだ。



4.

ほら、土の中には、いろいろな小さな微生物がいるね。
微生物は落ちた木の葉や動物のフンなどを
栄養にしているんだ。

ミミズは土から小さな微生物を食べて、おしりから出すんだよ。

だからミミズがいると土がやわらかくなるんだ。

そのミミズや小さな虫をカエルやネズミなどが食べて、
そのネズミたちをトリが食べるんだ。

でもトリも最後は死んで地面に落ちて、
微生物に分解されて土になるんだ。

木や草はその土から栄養をとるんだよ。

こういうのを、食物連鎖（しょくもつれんさ）というんだ。
生きていくには、みんなが関係しているんだよ！



5.

でも、最近は家や道路がたくさんできて
里山が少なくなってきたんだ。

僕たちの大好きなドングリの木も少なくなってきたんだよ。

リス族だけじゃないよ。カエル族もメダカ君たちも

田んぼや小川が少なくなっって、みんな困っているよ。

こわいタカたちも食べ物が少なくなったといていたよ。

人間も、少しは僕たちのことを考えてほしいな。



6.

おっと、そんなことを言っているうちに、
もう冬になってきた。

また、寒い冬がくるんだね。

食べ物も少なくなってきたなあ〜。

よし、埋めておいたドングリを食べよう。

アレレ、アレ〜

ア〜、どこにドングリを埋めたか分からなくなったよ〜



7.

でも、次の年の春になると

うめておいたドングリが芽を出しました。

新しい命がうまれたのです。

リスのリックーくん、ありがとう。

君たちのおかげで、新しいドングリの木がふえたよ。

だから、みんなも木や花や小さな動物たちを
大切にしようね。

終わり